B―154　現代主婦のファッション意識と行動（奈良市における実証研究より）

奈良女大家政　〇中川早苗

目的　今日のような大衆消費社会においては、人びとの衣生活はそのほとんどを既製服に依存している。しかし大量生産の上になりたつ衣服デザインが、単にデザイナーや企業によってのみ創り出されるものではなく、人びとの意識や生活の仕組みの中で決まっていくという事実をみる時、衣服デザインの在り方を広く人びとのファッション意識や行動（従属変数）、およびこれらに強く影響を及ぼす生活システムや生活意識（媒介変数）、基本諸属性（独立変数）などとの関連において明らかにすることは意義ある作業だと思われる。

方法　生活システムの仮説的モデルにもとづいて調査票を作成し、奈良市に居住する18才～69才の主婦を対象に配票留置法によるアンケート調査を行なった。ファッション意識や行動に関する質問項目への人びとの反応を、数量化理論Ⅲ類によって処理し、類型設定に有効な軸を抽出、ついで軸上の得点が近いものどおしをまとめるクラスター分析の手法により、主婦の類型を求め、衣生活システムや生活システムとの関連を分析した。

結果　数量化理論Ⅲ類によって抽出された主要な軸は、1.ファッションの機能に対して高い評価を与えるグループと低い評価を与えるグループとを弁別する軸、2.ファッション情報へ高い関心をよすものとそうでないものとを弁別する軸、3.現実の着装場面でのファッション行動に、より積極的な人と消極的な人とを弁別する軸である。これらの軸への人びとの反応をもとにして、クラスター分析を行なった結果、四つの主要なタイプが析出された。各々のタイプと衣生活における保有・購入・着装のパターンなど衣生活実態や、生活目標、生活態度・余暇観などの生活意識との間の関連が明らかとなった。